

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	低血圧を予測する Hypotension Prediction Index (HPI)の使用は、術中低血圧を防止することが可能か
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 麻酔科 (職名) 手術部副部長 (氏名) 阿部尚紀
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2026 年 12 月 31 日
対象となる方	2021 年 5 月から 2022 年 3 月、2025 年 1 月から 12 月に愛媛大学医学部附属病院で手術を受け、動脈ラインを留置された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況、手術中の血圧、心拍出量、等 (利用する試料) 特になし。
研究の概要 (目的・方法)	手術中の平均血圧 65mmHg 未満が 20 分以上続くと臓器障害リスクが上昇し、平均血圧 55mmHg 未満が 20 分以上続くと死亡リスクが上昇するとされています。 Hypotension Prediction Index (HPI) ソフトウェアは、低血圧を予測し、血行動態不安定性の原因の特定をサポートする新しいテクノロジーです。動脈圧ラインを留置するだけで、動脈波形の性状や呼吸性変動の程度などを解析し低血圧のリスクを 0～100 に数値化して表示します。値が高いほど低血圧の発生する可能性が高いことを示し、前負荷・後負荷・収縮力、心拍数など、何が原因で低血圧のリスクが高まっているのかも表示されます。これらの指標を参考に麻酔管理することで、平均血圧の低下を防止することが

	可能なのではないかと考えられました。愛媛大学医学部附属病院で過去に動脈ラインを留置しフロートラックセンサー(動脈波形から心拍出量を推定することが可能)を使用した症例と HPI を使用した症例を比較し、平均血圧 65mmHg 以下の低血圧の発生頻度やその程度に差があるかを調査することしました。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院麻酔科 阿部尚紀 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5383